

「第3回全国青年交流会」を大阪で開催

—全国から来賓を含め総勢48名が参加—

当組合は、去る10月19日（金）、大阪鉄鋼会館にて、東海支部支部長会社（㈱日鐵神鋼シャーリング）及び関係組合員の全面的バックアップのもと、第3回『全国青年交流会』を開催した。

参加者は、青年会メンバー37名（北海道支部3名、東京支部16名、東海支部10名、大阪支部6名、神姫支部2名）のほか、来賓として高木理事長、浅野副理事長（大阪支部長）、高木副理事長（東海支部長）が出席、総勢48名が参集した。

1. 見学会（13:00～16:40）

—新梅田シティ～大阪市環境局舞洲ゴミ処理工場～日鐵神鋼シャーリング工場—

当日は、12時50分に新大阪駅構内の「千成ひょうたん」前に集合。バス車内で大阪支部の㈱日鐵神鋼シャーリング・庵地部長及び㈱シーヤリング工場・佐々木顧問より歓迎の挨拶が行われた後、出発。両氏の案内で、淀川を渡り、高速で一路梅田方向に走る。30分後に新梅田シティに到着。「空中庭園」から大阪市内を展望しながら、一周した後、記念撮影。一行は次の見学先である大阪環境局の舞洲ゴミ処理場に向かう。同工場は、オーストリアの芸術家フンデルトヴァッサー氏の設計によるもので、自然との調和を目指したゴミ処理場である。外観は色合いも形も一見珍妙で、地元や近郊県、海外からも多勢の小学生、家族連れの見学者が訪れるなど人気を博しているようである。そこでごみの減量・リサイクル状況をつぶさに見学した後、10分ほどで次の見学先「㈱日鐵神鋼シャーリングの工場」に到着。同工場では、総勢50名が懇切丁寧なご説明を受けながら、工場レイアウトに沿って、短納期・小物・高品質化への対応を目指した、効率性の高い最新鋭の工場を視察させていただいた。視察メンバーは、工程ごとに強い関心を寄せ、しばし熱心な質疑応答の光景が随所でみられた。他社工場の臨場感に触れながら、見て・聞いての有意義な見学会であった。記念撮影後、同工場を出発し、バスは17時20分頃、大阪鉄鋼会館に到着した。

2. 地区情勢懇談会（17:30～18:30）

引き続き、17時30分より、大阪鉄鋼会館にて「地区情勢懇談会」が行われた。議事は以下の通り。

司会：米原・ダイコースチール㈱取締役

①歓迎挨拶 浅野・大阪支部長（㈱日鐵神鋼シャーリング社長）

要旨「今年4月に大阪支部長に着任し、初めてこの青年交流会に出席させていただいたが、全国の次世代を担う若手・中堅の経営者・幹部候補の方々が多勢参集し、色々会話を交わ

す姿を拝見して誠に頼もしく感じられる。駆け足で短時間であったが当社の工場を見学していただき、少しでも皆さんの実りとなって活かしてもらえれば幸いである。大阪支部はこの機会に他の支部に負けないよう青年部会を組織化、活性化させて、これからも本会に積極的に参加してまいりたい。本日の青年交流の場を活用し、日頃抱えている共通の課題や悩みを仲間同士で議論して、それらが明日からの経営改善につながるよう願っている。」

③ 講話 高木理事長（㈱富士鉄鋼センター社長）

要旨「第3回目の青年交流会を大阪で開催するに当たり、ご多忙にもかかわらず諸準備を進めていただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げたい。

- ・ 現下の厳しい経済情勢は、景気循環ではなく構造的な問題であり、この構造不況を踏まえた環境変化への対応が重要である。つまりマーケットの好転を期待し、それを頼りに景気回復を待っていても好機を逸してしまう。これまで営々と築いて固有の技術や人財といった機能を成長させることもできない。
- ・ そうではなく、「従来のももの考え方、捉え方の視点を変える」ことが大切である。かつては個社の力で、販売や収益を伸ばしていったが、それが困難になってきた昨今、誰かと組み、連携し、個と個の力を合わせて市場に対峙する姿勢も必要な時期が到来している。その一例が10月1日の鉄鋼大手の合併に現れている。
 - ・ それは必ずしも、資本提携に代表されるハード・アライアンスと言う意味ではない。個々社が持っている「良さ」や「強み」を部分的にも相互活用し、協業パートナーシップによるシナジー（相乗効果）で顧客満足度を高め、事業の成長に繋げていく試みを指している。工夫すればやりようの選択肢は何通りもあるはずである。
- ・ 企業の存続・成長は、「商売を伸ばす」だけでなく、「いかにコストを下げ、収益力を増すか」である。これを模索するうえで、メーカー、加工流通、ユーザーをつなぐ『サプライチェーン』強化に向けた仕組みづくりが重要である。
- ・ 『サプライチェーン』とは、「商流」と「情報流」を指し、この2つの流れを一体的に捉え、淀みや濁りが停滞することなく清流化することである。この結果、「太くて短い、密度の濃い商流・情報流」を形成し、ひいては「強いサプライチェーン」を築くことになる。
- ・ 個社段階での経費節減やコストの合理化は、長年にわたり乾いたタオルを絞りに絞ってきており、ほとんど限界領域に達しているはずだ。
- ・ 更なるコストダウンは、真のサプライチェーンの構築によって、ムダを排除することである。その実現に向け、従来のやり方を見直す過程で、一時的・部分的にはミル、シャワー、ユーザーに負担がよるかもしれないが、トータル・サプライチェーンの形成でメリットが創出できる。そのメリットを相応に享受するんだという発想への転換が重要だ。掛け声だけでなく、具体的成果に繋げてゆくことが本当に必要な時期が来ている。コスト合理化の“種”は探せばいくらでもある。

・こうした課題に真剣に取り組むべきは、「次世代を担う業界の若手・中堅クラスの経営者・幹部である。問題解決に向けた自助努力はもとより、協業や連携も含めた観点こそが、事業の継続・発展に繋げてゆける『道』である。青年メンバー諸氏は、『自信と誇り』を強く持ち、これからの道を邁進してほしい。」

④ 講 話 高木副理事長・東海支部長（三和鐵鋼(株)社長）

要旨「本会に初めて参加させていただいているが、大変充実したプログラムで、それを用意・準備していただいた大阪支部の方々に深く感謝申し上げる次第である。ここ「本町」あたりは、かつて厚板営業をやっていた頃を思い出し、非常に懐かしいところである。その頃、昼夜を問わず、シャープ業者の方々にはいろいろとお付き合いをさせていただき、お世話になった。まだ商売に展望が持てた時代であり、その頃の人と比べると、今の若い人達は正直気の毒だと思う。その一因としては、需要減退はもとより、ユーザーの材料調達の選択肢が広がったことがあげられる。輸入材の台頭に伴い熾烈な国際競争に突入し、内需依存型産業のシャープ経営はずっと苦境に置かれてきている。コスト面では各社絞り切った感があり、収益向上策はコンプライアンス強化等の事情が絡み、経営環境は八方塞がりの状態にある。非常に厳しい時代であるが、次代を担う皆さんには一つ一つ勉強してもらわなければならない。シャープ組合は結束の固い組合であり、サポート機能も備えているので、そうした機能や諸先輩を活用して、一歩先へ進んでほしい。」

⑤ 地区情勢懇談会

北海道（西村・玉造(株)取締役）、東京（炭本・ニューエイジ(株)部長）、東海（柴田・鈴将鋼材(株)係長）、大阪（庵地・(株)日鐵神鋼シャープリング部長）、神姫（橋崎・日新産業(株)部長）の各支部代表より、現状報告が行われた。

⑥ 閉会の辞 宮崎・高砂金属工業(株)取締役

⑦ 記念撮影 事務局（佐々木・染宮）

3. 交流パーティ（18：30～21：00）

司会：庵地・(株)日鐵神鋼シャープリング部長

① 開会挨拶 庵地・(株)日鐵神鋼シャープリング部長

② 来賓挨拶 浅野副理事長・大阪支部長（(株)日鐵神鋼シャープリング社長）

要旨「本日は、見学会からスタートし、支部代表の情勢報告をお聞きし、大変有意義な会

合だった。各地区ともシャー業界を取り巻く環境は厳しいが、しばしそれを横に置いて、大阪の地で青年の絆を更に深める交流にしていきたい。」

③乾杯 加藤・東海支部青年会会長（アカシ(株)社長）
— 歓談 —

④地区代表挨拶
北海道（阿部）、東京（松本・松本鋼業(株)社長）、東海（中村・丸定産業(株)部長）、大阪（小林・大和シャーリング(株)取締役）、神姫（橋崎）の各地区代表より挨拶が行われた。

⑤感想・総括 鉄鋼新聞社（太田記者）

⑥中締め 小松・J F E 鋼材(株)大阪工場 副工場長

以上





